

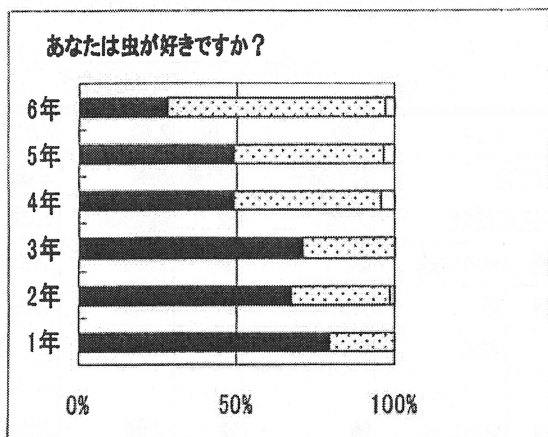
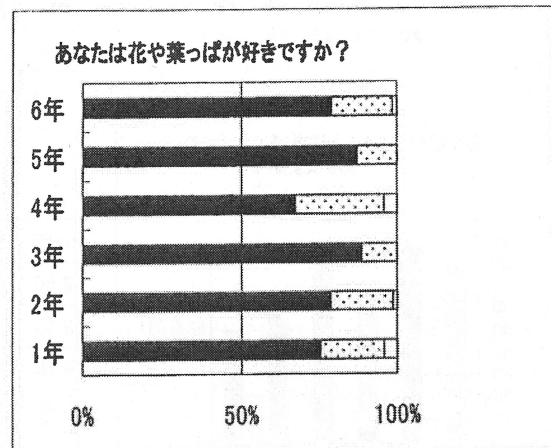
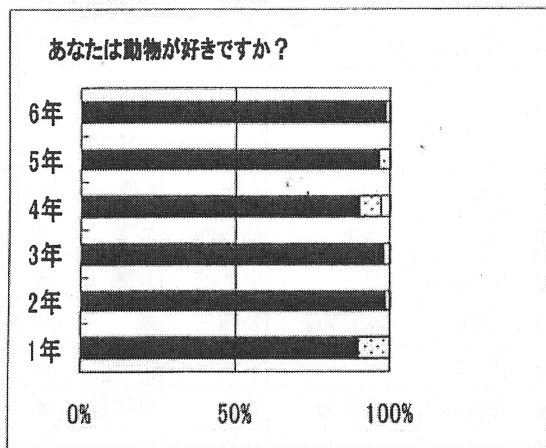
## 佐倉東小学校での5年間の活動を終えてのアンケート

さくらネイチャーゲームの会 有賀朋子 大松明子

私達さくらネイチャーゲームの会は、佐倉東小学校の「子どもたちに身近な自然体験をさせたい」という依頼により、年間6日間各学年の子どもたちにN. G. をする機会を得た。それがこの度5年目となり、ひとつの節目として子どもたちにアンケートを実施してみた。

私達がアンケートで子どもたちに尋ねてみたこと、その結果、それに対する考察の順にまとめてみた。

### ①虫、花や葉っぱ、動物が好きか？

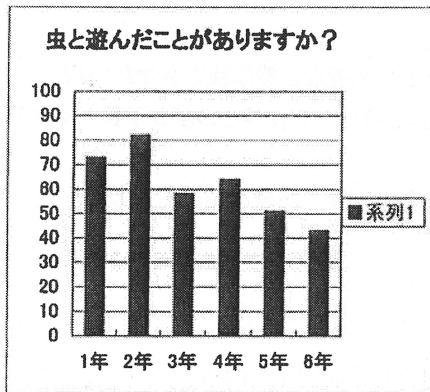


好き …黒  
嫌い …水玉  
その他 …白

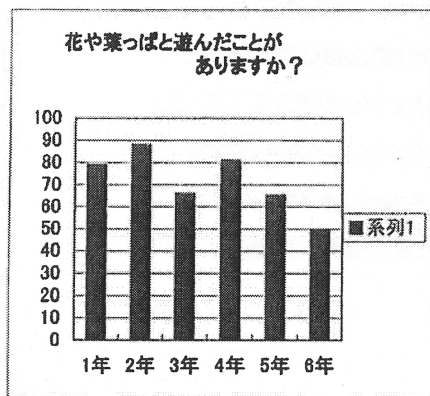
この表から見て取れるのは、花や葉っぱ、動物に比べ、虫を嫌う子どもが多く、また、学年が上がれば上がるほど虫が嫌いな子どもが多いということである。

これは、たまたまその学年に虫の嫌いな子どもが多かった、という結果なのだろうか。それとも、学年が上がるにつれ虫を嫌いになっていく、ということなのだろうか。もし、そうなのだとしたら、そこにはどんな原因があるのか。いつか、その辺のことも迫れたらと思った。

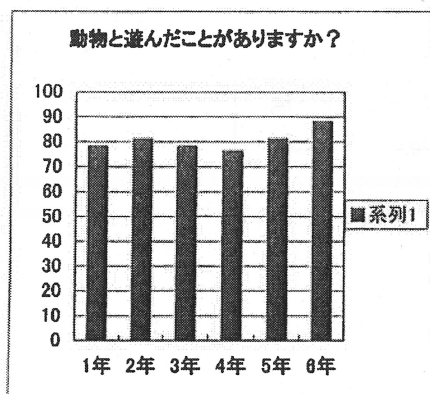
②虫、花や葉っぱ、動物と遊んだことがあるか？また、それは誰とどこでなのか



	誰			どこで		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1年	友達	一人	親・親戚	小学校	家	幼稚園
2年	友達	親	兄弟姉妹	小学校	家	公園
3年	友達	兄弟姉妹	祖父母・親戚・一人	家	小学校・公園	
4年	友達	兄弟姉妹	一人	家	公園	小学校
5年	友達	兄弟姉妹	一人	公園	家・小学校	
6年	友達	兄弟姉妹	親	家	公園	小学校



	誰			どこで		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1年	友達	親	先生	幼稚園	公園	家
2年	友達	兄弟姉妹	親	小学校	公園	家
3年	友達	兄弟姉妹	親・祖父母	公園	家	小学校
4年	友達	祖父母	親	公園	小学校	家
5年	友達	兄弟姉妹	祖父母	公園	小学校	家
6年	友達	兄弟姉妹・一人		公園	家	小学校



	誰			どこで		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1年	親・友達		兄弟姉妹	家・動物園		公園
2年	親・兄弟姉妹		友達	家	動物園	公園
3年	友達	兄弟姉妹	親	家	公園	動物園
4年	友達	親	兄弟姉妹	家	公園	幼稚園
5年	親	友達	兄弟姉妹	家	公園	動物園
6年	友達	兄弟姉妹	親	家	公園	小学校・動物園

①と②の結果をまとめているときに面白いことに気がついた。それは、“〇〇が好き＝〇〇と遊んだことがある”、“××が嫌い＝××と遊んだことがない”とは一概に言えないということである。

実はこの結果の裏で、虫、花や葉っぱ、動物が好きなのに遊んだことがないという子どもは、虫－45人、花や葉っぱ－70人、動物－60人もいるのである。また、その逆でこれらが嫌いなのに遊んだことがあるという子どもも、虫－62人、花や葉っぱ－29人、動物－5人もいるのである。

好きなのに遊んだことがないということは、とても残念なことに感じた。また、嫌いなのに遊んだ経験のある子どもたちは、遊びを通してそれらを好きになれなかったということなのだから、それもまた残

念なことに感じた。

しかし、嫌いなのになぜ遊ぶことになったのか、それが興味深い。幼稚園や学校などのある意味強制的な関わりの時間があったのかと思いきや、そのほとんどが、友達や家族との自由な遊びの中で、その嫌いなものと遊ぶ経験をしてきているのである。中には、一人で遊んだという子どもも数人いた。一人で、となると話はまったく変わってくるのかもしれない。嫌いなものしか遊び相手がいなかったのかということになるからだ。でも、嫌いなのに遊べた子どもたちは、“嫌いだから遊ばない”という子どもたちに比べ、嫌いの度合いが軽いともいえるかもしれない。仕方なく遊んだにせよ、楽しさや、親しみ、面白さを知る機会に触れられるということは、嫌いから好きになれる可能性を秘めているように思った。

また、遊び場についてのまとめからは、子どもたちにとって、自然と触れ合える場がどこかということが伺えるのだが、どれも遊び場として“提供された場”ということに特徴がある。

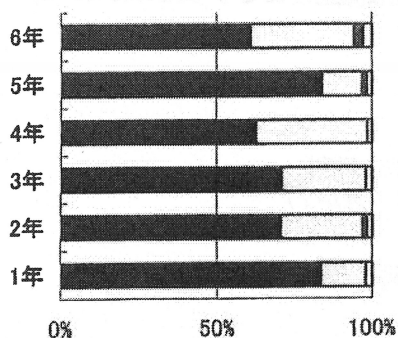
私達が子どもの頃身近であった、原っぱ、空き地、裏山、道などと答える子どもは本当にわずかであった。私たちが幼い頃も公園はよく遊んだ場所には違いないが、同じくらい、いやそれ以上に、空き地や田んぼ、裏山などが遊び場となったものだった。多くの虫、花、生き物を求めてそれらの場に出向いたり、遊びによってはむしろ遊具のある公園を避けて遊んでいた時もあった。そう考えると、いかに今の子どもたちの周りから“造られていない自由な場所”が消えたのか、また、子どもたちの遊び方が変わったのか伺える。

佐倉東小学校には昔で言う空き地、原っぱと呼べるスペースも見受けられ、自然にも恵まれた環境であることを考えると、自然と関われる・自然を感じられる遊び場として3位以内にあげてくるのもうなづけるのだが、時間的制限のある場であることを考えると、遊び場として制約を感じることは否めない。

### ③ 今日やったネイチャーゲームは楽しかったか、ふつうか、つまらなかったか

### ④ 今まで経験したネイチャーゲームで楽しかったもの、つまらなかったものは？(5・6年生のみ)

今日やったネイチャーゲームはどうでしたか？



楽しかった ……黒  
 普通 ……水玉  
 つまらなかった…斜線  
 その他 ……白

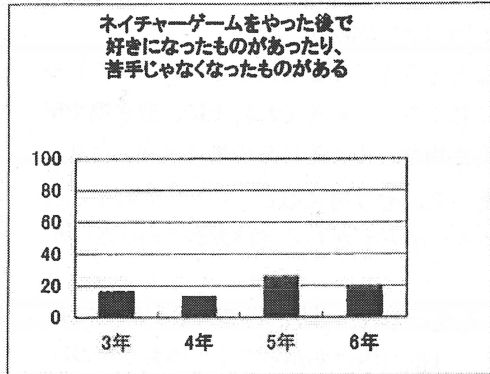
楽しかった ネイチャーゲーム	つまらなかった ネイチャーゲーム
いねむりおじさん (31)	ない (35)
森の設計図 (32)	森の設計図 (12)
動物ヒントリレー (20)	私は誰でしょう (6)
全部 (17)	フォールドボエム (6)
私は誰でしょう (9)	動物ヒントリレー (5)
コウモリとガ (7)	同じものみつけよう (宝さがし?) (3)
動物あてゲーム (6)	全部 (2)
フォールドボエム (5)	落ち葉のカルタとり (1)
カモフラージュ (1)	その他 (1)
ビンゴ (2)	
その他 (4)	
5年のときに やったもの (7)	

5・6年生のみの質問：( )内は票数

③と④は私達が提供したN. G. に関する子どもたちの率直な答えである。ゲーム指導員として、ゲームの提供の仕方などを今後に生かしたいと思う。

**⑤ネイチャーゲームをやったあとで好きになったもの、苦手じゃなくなったものがあるか？また、それは何か(3年生以上のみ)**

克服したもの・好きになったものがある・・・47名



- 克服したもの・好きになったもの
- ・ 葉、枯葉、花が好きになった
  - ・ 木と花と遊ぶこと
  - ・ 虫が好きになった、虫が少し友達になった気がする
  - ・ 虫・ウサギの糞などに触れるようになった
  - ・ カラスが怖かったけど、好きになった
  - ・ 外遊び ・ 部屋の中での遊び
  - ・ 土などの上に思い切り寝てみたりすること
  - ・ 皆と明るく遊ぶこと
  - ・ 自然と触れ合えた
  - ・ 自然が好きになった
  - ・ モモンガ ・ フクロウ ・ アリ
  - ・ 観察すること
  - ・ ゲーム (ピンゴ・カモフラージュ・私は誰でしょう・ノーズ・コウモリとガ・目指せ名探偵)

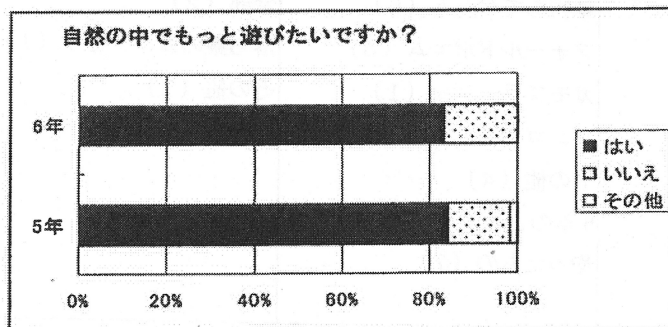
これらは子どもたちがN. G. を通じ好きになったもの、苦手じゃなくなったものをまとめたものである。47人も子どもたちに何らかの形で影響があったことを知り、素直に嬉しく感じた。

**⑥小学校以外でネイチャーゲームの経験があるか、また、それは誰とどこでやったのか(5・6年生のみ)**

小学校以外でのネイチャーゲーム経験・・・(10名)

- ・ 誰と・・・友達・親・兄弟姉妹・子ども会
- ・ どこで・・・グラウンド・学校・森・幼稚園・動物園・公園・旅行先・砂利  
(グラウンド、学校はネイチャーゲーム指導員がするゲーム以外の意か?)

**⑦自然の中でもっと遊びたいか？また、それは、誰と、どこで、何を(5・6年生のみ)**



” はい “と答えた子どもたちのしたいこと

誰と？

友達(82%)・家族(14%)・1人(4%)

どこで？

森林(33%)・公園(19%)・学校(16%)・原っぱ(8%)  
外(7%)・自然(4%)・山(3%)・川(3%)・海(2%)

何をしたい？

ゲームをする(鬼ごっこ・かくれんぼ・走るなど)

ネイチャーゲームをする

草花と遊ぶ・観察・葉っぱ探し

秘密基地作り・ジャングル作り

虫捕り・虫と遊ぶ

自然の中で遊ぶ・自然の中に入る

色んな事をする

寝転がる・雲を見る・ひなたぼっこ

スポーツをする

動物と遊ぶ

探検・木登り・クラフト

野生動物を見たい・ターザンをする

泳ぐ・磯遊ぶ・カヌー

木を切る・住む・絵を描く

自然のことを知りたい

“いいえ”と答えた子どもたちの理由

虫がいるから

アリがいるから

虫がいると気持ち悪い

虫が嫌い

虫に刺されやすいから

カミキリムシが嫌い

自然に興味がない

つまらない

くだらない

意味がない

夜が嫌

怪我をするから

危険の判断が出来ない

人が何かやってくれるならいいけど・・・

やる事が決まってないとなたらずむのみ

ネイチャーゲームで自然と触れ合えたから

80%以上の子どもたちが“もっと自然の中で遊びたい”と答えている。そして、そのどれもが魅力的であり、どんどん経験していつてみて欲しいことであった。

してみたいことの中には、今までもしてこられただろうこともあった。気になるのは、これらを今までもしてきたことがあるのか、それともしたことがないから憧れていることなのか。もし、出来そうなことなのに、今まで出来なかったのだとしたら、何が子どもたちをそれから遠ざけていたのか調べてみたい。時間的余裕、環境の有無、遊び仲間の有無などなど。

“自然の中で遊びたくない”という理由の中に、怪我をする、危険の判断が出来ない、やる事がなくてたたずむ・・・、という意見がある。これは、外での遊びの経験のなさから来るものであろう。また、N. G. で自然と触れ合えたからもういい、という意見があり、驚きを感じた。N. G. 1つ～2つ程度の自然との触れ合いでもう充分とは・・・。たった一名の意見ではあるが、そのように感じることもあると知り、N. G. を提供する側としては、より自然への興味がわくような提供の仕方をしていくべく課題ともなる一言であった。

以上が私達のアンケート結果である。子どもたちがどんな環境の中にいるのか、自然と触れ合う時にはどんな仲間という時なのか、ネイチャーゲームによる変化はあるのか・・・、など知りたいことはたくさんあ

りましたが、知りたいことに迫りきれしていない設問がいくつもあったようにも思います。

ただ、私達が幼い頃、虫や、花や葉っぱや、動物と遊んだことがないという子どもは少なかったのではないのでしょうか。私達が楽しいと思った体験を子どもたちにもさせてあげたいと思いつつ、子どもたちの遊び場を奪い、また、子どもたちと過ごす時間を持つことも少なくなってしまう大人たち、そう考えると、今ゆとりを求められているのは子どもたちではなく大人なのかもしれない。また、子どもたちの遊ぶ仲間、遊び方も変わってきてしまったのかもしれない。そんな中で、自然への興味・親しみというものも薄らいでしまったところがあるように思う。

佐倉東小学校に来年以降もゲーム指導をする機会に恵まれた。私達が出来るアプローチの入り口はあくまでもネイチャーゲームからであることに変わりはないが、ゲームを通して子どもたちに自然に気づかせ、自然を好きになってもらえるようなアプローチ、先生たちとの意思疎通を図った上でのゲーム提供をしていけたらと思う。